みやぎ県議会だより

令和４年
９月定例会特集

第144号

編集・発行　宮城県議会企画広報委員会
〒980-8570　仙台市青葉区本町３丁目８番１号
TEL 022(211)3592　FAX 022(211)3598

7月大雨 対策強化を

知事「災害に強い河川整備」

第385回宮城県議会（9月定例会）は9月15日から10月19日まで35日間の日程で開かれた。479億6400万円を盛り込んだ令和4年度一般会計補正予算や、県の独自課税「みやぎ発展税」の税率を維持したまま5年間延長する条例改正など40議案を原案通り可決した。また、外崎浩子副議長の後任には池田憲彦議員が選出された。代表・一般質問では、災害に強いまちづくりの推進や子育て支援、再生可能エネルギーの導入などで活発な議論が展開された。

9月定例会の本会議

災害対策を巡っては、活発な議論が繰り広げられた。7月の記録的大雨で大崎市を流れる名蓋川が決壊した件で、議員は「川は7年間で3回決壊し、水害に見舞われた。どのような対策を取るのか」と質問し、地域の特性を理解した上で、災害対応の取り組みを強化することを求めた。知事は「被害の原因を踏まえた上で、堤防の機能強化をはじめ、遊水地や輪中堤などの流域治水の考え方を取り入れながら、災害に強い河川整備を行う」と答えた。

浸水被害を受けた農作物に関し、議員は「生産資材などの購入支援や制度資金の無利子化を進めるべきだ」と強調した。知事は「被災した水稲・大豆・ネギなどの次期作付けを支援する事業を予定している他、飼料のかかり増し経費やLPガスの購入経費について、県独自の支援を行う」と説明した。

9月定例会には、「みやぎ発展税」の使途を震災対策から災害対策に拡大する条例改正案が提案された。議員は「みやぎ発展税は、産業振興や美しく安全な県土づくりのために導入された。当初の目的からの拡大解釈は慎重にするべきだ」と指摘。知事は「災害による経済活動や県民生活などへの影響を最小化するため、使途を拡大する必要があると判断した」と答弁した。

東北電力女川原発（女川町、石巻市）で重大事故が発生した際、住民避難に活用できる、県が独自開発したアプリについて、議員は「災害は広域にわたり発生することが想定される。他県への展開を視野に入れて取り組みを進めるべきだ」と強調した。知事は「アプリは自然災害をはじめ、さまざまな用途で活用できる可能性がある。他県との連携を含めた活用方法を検討する」と述べた。

「水害時に使用する排水ポンプの確保をさらに進めるべきだ」との議員の提言に、土木部長は「市町村や関係団体と意見交換しながら、支援体制の強化を検討する」と答えた。

低い出生率に危機感

出産環境の整備 ■ 非常事態宣言を ■ 専門チーム要望

少子化対策や子育て支援に関する質疑でも熱心な議論が展開された。

県の2021年の合計特殊出生率は6年連続で低下し、全国では東京都（1・08）に次いで低い1・15となっている。議員は「全国ワースト2位の現状をどのように分析しているのか」と述べ、安心して出産できる環境を整備するよう求めた。知事は「20～30代の女性の有配偶率と有配偶出生率が低いほか、平均初婚年齢と第1子の出生時年齢が高い傾向にある」との分析結果を説明した。

「少子化非常事態宣言をするべきだ」と迫った議員は、県全体で危機感を共有するための啓発活動を展開することを提案した。知事は「5月には『宮城県ベビーファースト活動宣言』を行っている。今後も『子育て支援を進める県民運動』と連動させながら、地域に根差した取り組みを進める」と答弁した。

議員は「各家庭が地域とのつながりを充実させるような体制づくりに努めるべきだ」と強調。知事は、県の地域学校協働活動推進事業に関し「中心的役割を担う人材の確保に苦慮している地域もあるが、市町村とともに地域全体で子どもを支える体制づくりを推進する」と述べた。

子どもに関する相談機関の設置に向け、専門家による「子ども専門チーム」の設立を求めた議員に、知事は、児童相談所に配置している職員や委託する弁護士などと連携している現状の体制の充実に理解を求めた。

中学部活動地域移行

受け皿の育成求める

教育関連では、公立中学校で休日の部活動を地域の団体や民間事業者に委ねる「地域移行」について、議員は「受け皿の団体を育成することが必要」とした上で、「地域の実情に応じて国や県が支援すべきで、指導ガイドラインの順守も含めた対策が要る」と訴えた。

教育長は「市町村へのアンケートによると、継続的な指導者の確保が課題に挙がっている」と述べ、指導者の確保に向けた対応強化に取り組むことを説明した。

県が開設を目指す日本語学校に関して、開設者や支援スキームをどのように想定しているのかを質問した議員に対し、知事は「市町村による運営を前提とし、関心のある自治体と意見交換を進めている。複数の地域での開設を視野に入れつつ、まずはモデルケースとなる学校を開設したい」と述べた。

再エネに課税提言

森林以外への誘導目的

再生可能エネルギーに関する議論も展開された。

再エネの発電所計画を巡っては事業者と地元とのトラブルが相次いでおり、議員は「再エネの導入を促進しつつも、自然環境や地域との共生を図る必要がある」と述べ、新たな税の導入を目指すべきだと提言した。

知事は「新たに森林を開発して施設を設置する事業者に課税することにより、経済的負担が重くなる状況を作り出したい。森林以外に施設を誘導することを検討している」と述べ、2024年4月に独自課税の導入を目指していることを表明した。

新たな再エネの導入を目指し、議員は「水力発電に適した河川やダムの調査の状況は」と質問した。知事は、県が管理する11のダムのうち、七北田ダムなど4ダムは一定の発電量が見込まれることを挙げ、「事業の収益性や費用対効果などを調査しながら、事業化に向けて検討する」との姿勢を示した。

議員は「バイオガス原料としての家畜ふん尿は、脱炭素と地域課題が同時に解決できる」と、活用へ向けた取り組みを進めることを求めた。知事は「県内で発生する家畜ふん尿の多くは堆肥化によって農地に還元されている。実情を踏まえた上で検討することが必要」と理解を求めた。

使い捨てプラスチック製品の削減に向けた「プラスチック資源循環促進法」が今年4月に施行された。議員は「プラスチック廃棄物を削減するための取り組みは」と質問した。知事は、昨年3月に使い捨てプラスチックの使用削減などを掲げた計画を策定したとして「再生可能資源を積極的に利用するよう促していく」と答えた。

議決した議案等

可決した意見書＜4件＞

○私学助成の充実強化に関する意見書
○優生保護法問題の早期全面解決を求める意見書　他

可決した決議＜1件＞

○北朝鮮による弾道ミサイル発射に抗議する決議

可決・認定・同意した知事提出議案＜40件＞

○令和４年度宮城県一般会計補正予算
○令和４年度宮城県県有林特別会計補正予算
○会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
○宮城県県税条例等の一部を改正する条例
○富県宮城推進基金条例の一部を改正する条例
○和解及び損害賠償の額の決定について
○財産の取得について（無線アクセスポイント一式）
○工事請負契約の締結について（川内沢ダム本体築造工事）
○令和３年度宮城県一般会計決算及び各特別会計決算の認定について
○教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて
○公安委員会委員の任命につき同意を求めることについて　他

採択した請願＜1件＞

○政府及び国会に対し私学助成に関する意見書の提出を求めることについて

※議案等に対する各議員の表決状況については、県議会ホームページに掲載しているほか、議会図書室で閲覧できます。

質問者と主な質問項目

○**代表質問**（3人）
▽**佐々木賢司**（自民）宮城県の諸課題について、新しい宮城県民歌について　他▽**ゆさみゆき**（県民の声）誰もが安心して暮らせる共生社会の実現、社会全体で支える子ども・子育て　他▽**天下みゆき**（共産）4病院再編問題と地域医療構想について、原発広域避難計画と処理水海洋放出　他

○**一般質問**（16人）
▽**守屋守武**（自民）水産業の振興について、中学校部活動の地域移行について　他▽**遠藤隼人**（自民）県民を守る警察行政について、子供たちを守る幼児教育について▽**佐々木功悦**（県民の声）政府の原発新増設等の方針転換について、一級河川出来川堤防決壊等について　他▽**村上久仁**（自民）再生可能エネルギーについて、4病院の統合・合築について　他
▽**吉川寛康**（21世紀）人口減少社会への対応について、子ども・子育ての充実について　他▽**庄田圭佑**（自民）県民の安全・安心の確保に向けて、みやぎ健民づくりについて▽**八島利美**（自民）令和元年東日本台風被害の復旧復興推進、流域治水プロジェクト推進について　他▽**太田稔郎**（県民の声）宮城県農業の振興について、宮城県における環境問題について
▽**櫻井正人**（自民）松島・利府周辺の渋滞対策について、農業政策について　他▽**松本由男**（自民）県として出来ることから国民保護、ナッジの推進で三方良し　他▽**三浦一敏**（共産）統一協会と政治家、行政の関係について、大雨被害と堤防決壊等について　他▽**伊藤和博**（公明）少子化対策について、病院再編問題について　他
▽**佐々木喜藏**（自民）金利上昇局面における財政運営について、震災復興について、震災復興事業について　他▽**境恒春**（県民の声）気仙沼市と南三陸町の諸課題について、ウクライナ支援について　他▽**本木忠一**（自民）「少子化非常事態」を問う、中学校運動部活動の地域移行とは　他▽**岸田清実**（社フォ）4病院再編問題と刈田綜合病院問題、原子力災害時避難計画について

〈会派名略称〉
自由民主党・県民会議（自民）、みやぎ県民の声（県民の声）、日本共産党宮城県会議員団（共産）、公明党県議団（公明）、社民フォーラム県議団（社フォ）、無所属の会（無所属の会）、21世紀クラブ（21世紀ク）、緑風会（緑風会）、無所属（無所属）

防潮堤工事 遅れを指摘

震災復興事業

9月定例会の開会前、東日本大震災から11年半が経過した。復旧・復興事業に関し、議員は「気仙沼市内の一部の防潮堤工事が年度内に完了しない見通しだ」と述べ、早期の完成へ向けた取り組み強化を求めた。

知事は、気仙沼市内の4地区の防潮堤で、8月末現在で事業の進捗率が50～70％にとどまっていることを明らかにし、「進行管理を徹底して早期の事業完了に向けて取り組んでいく」と答弁した。

東京電力福島第1原発の処理水放出に関し、議員は「地元の理解抜きに海洋放出を行うべきではない」と訴えた。知事は「既に風評リスクが高まっている。スピード感を持った風評対策・なりわい支援が必要であり、国と東京電力に対応を求める」と述べた。

震災後に増加したとされる空き家について、議員は「対策には県が積極的に関与すべきだ」と強調。土木部長は、2018年の国の調査で、県の空き家率は住宅総数の約12％となっていることを説明、「空き家の利活用や抑制対策に積極的に取り組む」と答えた。

述べた。

「県の全国学力・学習状況調査の結果は深刻な状況だ」と述べた議員は、学力の底上げに向けた今後の対応策を質問した。教育長は「大学教授等の有識者とともに、子どもたちのつまずきを分析した上で、授業の改善に生かせるよう、指導のポイントをまとめたい」と話した。

予算特別委員会

９月16日及び10月６日に、総括質疑を行い、その後、各分科会での審査を経て、新型コロナウイルス感染症対策や物価高騰などへの対応、３月の福島県沖を震源とする地震や、７月に発生した大雨被害からの復旧に要する経費などを計上した令和４年度補正予算を可決した。

決算特別委員会

10月13日に、総括質疑を行い、その後、各分科会での審査を経て、令和３年度宮城県一般会計決算及び各特別会計決算、公営企業会計決算について認定した。

質疑者については以下を参照願います。

https://www.pref.miyagi.jp/site/kengikai/shitsumon385.html

常任委員会

今定例会での主な審査議案は次の通り。

○総務企画委員会
職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例、会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例、外国の地方公共団体の機関等に派遣される職員の処遇等に関する条例の一部を改正する条例など16議案

○環境福祉委員会
なし

○経済商工観光委員会
富県宮城推進基金条例の一部を改正する条例

○農林水産委員会
家畜改良増殖法施行条例の一部を改正する条例、工事請負変更契約の締結について（気仙沼漁港防潮堤災害復旧工事（その４））

○建設企業委員会
建築基準条例の一部を改正する条例、和解及び損害賠償の額の決定について、工事請負契約の締結について（川内沢ダム本体築造工事）など４議案

○文教警察委員会
義務教育諸学校等の教育職員の給与等の特別措置に関する条例の一部を改正する条例、学校職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例、県立学校条例の一部を改正する条例など５議案

議長記者会見

菊地恵一議長

９月定例会閉会日の10月19日、菊地恵一議長が記者会見を行った。

９月定例会を振り返って菊地議長は「今定例会では、７月に発生した大雨による被害への対応を含めた災害対策について多くの議員が取り上げたほか、少子高齢化社会の進展に対応する地域活性化対策や子育て支援、再生可能エネルギーなどについて、議論を交わした。その他、県立病院等の連携・統合や地域医療、女川原子力発電所の避難計画などについても、幅広く議論が交わされた」と説明した。

また「総額479億6400万円の補正予算を可決するとともに、令和３年度宮城県一般会計決算および各特別会計決算、公営企業会計決算について認定した。補正予算の主な内容は、新型コロナウイルス感染症対策として、自宅療養者のフォローアップに要する経費や県立学校におけるＩＣＴ教育環境整備に要する経費などが計上されている」と語った。

さらに「物価高騰などへの対応として、畜産農家や酪農家、私立幼稚園や高齢者施設、鉄道事業者や福祉輸送事業者等に対する支援に要する経費のほか、３月の福島県沖を震源とする地震や、７月に発生した大雨被害からの復旧に要する経費なども計上されている」と述べた。

副議長就任あいさつ

池田憲彦副議長

第40代となる副議長に就任した池田憲彦副議長は「新型コロナウイルス感染症対策や、昨今の物価高騰、頻発する自然災害への対応など、さまざまな課題が山積している中、『車の両輪』と言われ、二元代表制の一翼を担う県議会が果たす役割は、ますます重要であると感じている。議会改革の流れを止めることなく、引き続き着実に推進したいと考えている。菊地議長を支え、副議長としての責務を全うする」と述べた。

県議会からのお知らせ

●ラウンジコンサート
◇次回コンサートの開催予定
・日　　時／11月24日（木）
　　午後０時15分～45分
・場　　所／県議会庁舎１階ラウンジ
・出　　演／聖和学園短期大学　ハンドベルクワイア
・ジャンル／ハンドベルの演奏

●傍聴のご案内
傍聴される皆様におかれましては、新型コロナウイルスの感染防止にご配慮くださるようお願いいたします。

詳細については、022(211)3571（総務課）までお問い合せください。

みやぎ県議会だより　検索

●ウェブ版みやぎ県議会だより　質問内容等の詳細を掲載するとともに、文字ばかりでなく、イラストや写真、余白等を生かした紙面構成のウェブ版を発行しています。

宮城県議会　検索

●ホームページのご案内
定例会の日程や会議録、議会中継等をご覧いただけます。

宮城県議会中継　検索

●議会中継のご案内
スマートフォンやタブレット端末で議会中継をご覧いただけます。